

# 機 + 能 + 的 + な 歯 + 内 + 治 + 療

痛みの防止と残した歯の価値を高めるために

刊行にあたって	3
---------	---

## 1 章

### 歯内治療を行うかどうかの判定法

I. 治療を行う価値があるのかを考える	10
1. 咬合・咀嚼機能面で果たす役割はあるのか	10
2. 咬合・咀嚼機能の一員として長期間役割を果たせるのか	10
3. 残存することで、何らかの傷害・障害を引き起こさないか	12
II. 治療可能な状況か	13
1. 自分の能力で十分治療が可能であるか	13
2. 治療終了までの通院回数、時間、経費の負担は大きくはないか	13
3. 患者は指示に従って、確実に通院してくれるのか	13
III. 治療すべき歯を確定するための診査をどのように行うべきか	15
1. 治療すべき歯を確定できるか	15
2. 適切な診断名を確定できるか	15
3. 治療内容を明確にできるか	16
4. 症例 白歯部の腫脹と重苦感を主訴としたケース 58歳、女性	16
● 症例1をめぐるQ&A	23

## 2 章

### 歯内治療の基礎となる全身医学

I. 治療前に踏まえておくべき基礎生体医学	28
1. 生理学：神経伝達機構	28
2. 病理学：炎症反応と治癒機構	34
3. 免疫学：生体防御反応としての機構	35
II. 治療前に踏まえておくべき歯周治療の違い	
— 根尖性と辺縁性歯周炎の相違点	39
III. 禁忌症はあるのか	40
1. 糖尿病	40

2  
章

2. 免疫不全及び自己免疫疾患	41
3. 心疾患 (狭心症・心筋梗塞)	42
4. 高血圧	42
5. 妊婦	43
6. 歯科恐怖症	44
7. 慢性痛 (症)	45
8. 麻酔奏効不全: 麻酔が効きにくい患者はいるのか	45

3  
章

## 痛みを踏まえた歯内治療の実際

I. 痛みを生じさせずに基本的歯内治療を成し遂げるために	50
I-1. 麻酔	50
I-2. 髄腔開拓	55
●コーンビームCTでどこまで分かるのか	63
I-3. ラバーダム防湿 (イソライトを含む)	64
I-4. 根管口明示	65
I-5. 根管長測定	67
I-6. 根管拡大・形成 (抜髄)	75
I-7. 根管拡大・形成 (感染根管治療)	83
I-8. 根管洗浄	92
I-9. 根管乾燥・清拭	100
I-10. 根管貼薬	103
I-11. 根管仮封	111
I-12. 根管充填	113
I-13. 医療事故 (インシデント)を防ぐために	122
II. 治療中に困った場合	123
1. 麻酔が効かない	123
2. 根管が見つからない	123
3. 根管の数が標準より少ない (槌状根)	124
4. 根管の複雑構造が見つかった (副根管、髄管、側枝、イスマス、フィン)	127

# 3 章

●複雑根（側枝：症例）	129
5. 亀裂・破折が見つかった	137
6. 穿孔した、あるいは穿孔部が見つかった	138
7. 内部吸収が見つかった	139
8. 外部吸収が見つかった	139
●外部吸収（症例）	141
9. フィステルが消えない場合	142
10. 根尖孔が完成していない場合	142
11. 破折リーマーやファイルの除去を考えた場合	144
12. 外科的歯内療法を考えた場合	145
13. 意図的再植を考えた場合	146
14. 根管が開かない場合	146
III. 患者が訴える痛みに関った場合	149
1. 根管貼薬後に急に痛みを訴えた場合	149
2. 気腫が生じた場合	150
3. 根管充填後に急に痛みを訴えた場合	152
4. 治療後に根尖部が急性化（Flare-up）した場合	153
5. 治療後に違和感が消えない場合	154
6. 治療後に咬合痛が消えない場合	156
7. 治療後に自発痛が消えない場合	159
IV. 慢性痛（症）の発現予防と対処法	161
1. 発生頻度	161
2. 発現原因	161
3. 神経障害性疼痛（Neuropathic pain）	167
4. 心理社会的要因による慢性的疼痛	168
5. 慢性痛（症）の実際的治療法	169
6. 慢性痛（症）を発現させないために	171

4  
章

## 歯内治療後の処置と予後

I. 歯内治療を終えたら	174
1. 根管充填後に、いつ修復・補綴処置を行うのが望ましいか	174
2. 修復・補綴中の違和感や疼痛	175
3. どのような修復・補綴をすべきか	175
II. 問題解決能力向上を目指して、失敗症例を見直す	177
1. 根管の見落としはないか	177
2. 適切な作業長であったか	177
3. 根尖狭窄部を破壊していないか	178
4. 根管充填材の填塞に問題はないか	178
5. 穿孔・亀裂・破折はないか	179
6. 根管充填材が過剰に根尖狭窄部から突き出していないか	179
7. 患者のこれまでの治療経過と違ってないか	179
III. 再感染根管治療で注意すべき点	181
1. 根管充填材除去	181
2. 根管充填材除去の確認	182
3. 根尖狭窄部にアピカルシートを再形成できるか	182
4. 根管拡大・形成不足がないかを確認	182
5. 再形成したアピカルシートが確実なものかを確認	182
まとめ	183